

授業科目名： 代数学序論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 線形代数学の基本（ベクトル・行列・連立一次方程式） ＜到達目標＞ （１）ベクトルと行列の基本的な計算ができる （２）連立一次方程式について理解し、一般解を求めることができる			
授業の概要 高等学校の課程におけるベクトルの概念から拡張・展開される理論を基本から活用まで幅広く学ぶ。 （１）ベクトルと行列の基本的な計算 （２）連立一次方程式の解法			
授業計画 第1回：行列の定義 第2回：正方行列 第3回：行列と数ベクトル 第4回：行列の演算 第5回：行列の演算の性質 第6回：行列の分割 第7回：行列と連立方程式（１） 第8回：行列と連立方程式（２） 第9回：まとめと中間試験 第10回：基本変形 第11回：簡約な行列 第12回：行列の階数と連立一次方程式（１） 第13回：行列の階数と連立一次方程式（２） 第14回：正則行列 第15回：まとめ			
テキスト 三宅敏恒『入門線形代数』（培風館）			
参考書・参考資料等 三宅敏恒『線形代数の演習』（培風館）			
学生に対する評価 試験：100％（中間50％、期末50％）			

授業科目名： 代数学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村瀬 雅俊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 線形代数学の基本と演習 ＜到達目標＞ （１）逆行列・行列式を具体的に求めることができる （２）固有値と固有ベクトルを求め、行列の対角化を行うことができる			
授業の概要 線形代数学に関する基本的な概念や計算方法およびその応用について学ぶ。具体的には、行列式の計算、ベクトル空間、線形写像とその表現行列などを取り扱う。			
授業計画 第1回：置換 第2回：行列式の定義と性質（１） 第3回：行列式の定義と性質（２） 第4回：余因子行列とクラメールの公式 第5回：特別な形の行列式 第6回：ベクトル空間 第7回：一次独立と一次従属 第8回：ベクトルの一次独立な最大個数 第9回：ベクトル空間の次元と基底 第10回：まとめと中間試験 第11回：線形写像 第12回：表現行列 第13回：固有値と固有ベクトル 第14回：行列の対角化 第15回：まとめ			
テキスト 三宅敏恒『入門線形代数』（培風館）			
参考書・参考資料等 三宅敏恒『線形代数の演習』（培風館）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 線形代数学のまとめと座標幾何学の基礎 ＜到達目標＞ （１）直交行列と対称行列の対角化を行うことができる （２）固有方程式・固有値について理解し、対角化を行うことができる （３）ジョルダン標準形について理解することができる （４）ケーリー・ハミルトンの定理について理解し、それを応用することができる			
授業の概要 ここでは、線形代数学のまとめを行う。線形代数学は現在、信号処理、情報通信、画像・音声処理その他の多くの分野において、基本的な役割を果たしている。この講義では、「代数学序論、代数学Ⅰ」のまとめとして、二次曲線への応用やジョルダン標準形、ケーリー・ハミルトン等の重要な概念について学ぶ。			
授業計画 第1回：内積 第2回：内積空間の性質 第3回：直交行列と対称行列の対角化 第4回：二次形式 第5回：座標系のとりかえ 第6回：直線に関する折り返し 第7回：二次曲線の概形 第8回：固有方程式と固有ベクトル・対角化 第9回：まとめと中間試験 第10回：行列のn乗 第11回：ジョルダン標準形 第12回：平面内の直交変換 第13回：ケーリー・ハミルトンの定理とその応用 第14回：微分方程式とジョルダン標準形 第15回：まとめ			
テキスト 三宅敏恒『入門線形代数』（培風館）			
参考書・参考資料等 長谷川浩司『線型代数』（日本評論社）三宅敏恒『線形代数の演習』（培風館）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 代数学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 数ベクトル空間、次元 ＜到達目標＞ 線形空間、線形写像、次元定理を理解し、内積空間における基底のシュミットの直交化についてのアルゴリズムについて理解できる。			
授業の概要 「代数学序論、代数学Ⅰ、代数学Ⅱ」で学んだ事柄を基礎として、その発展である抽象線形代数学の基本について学ぶ。具体的には、 （１）抽象線形空間 （２）線形写像 （３）内積空間 （４）次元定理、 などを学ぶことにより、線形代数学の抽象代数的な側面に触れる。			
授業計画 第１回：数ベクトル空間 第２回：行列とその演算 第３回：線形写像とその行列表示 第４回：いろいろな行列 第５回：直線 第６回：平面 第７回：ベクトル積 第８回：まとめと中間試験 第９回：像と核、部分ベクトル空間 第１０回：次元 第１１回：次元定理 第１２回：正規直交規定 第１３回：内積空間・二次形式 第１４回：シュミットの直交化 第１５回：まとめ			
テキスト 三宅敏恒『入門線形代数』（培風館）			
参考書・参考資料等 長谷川浩司『線型代数』（日本評論社）三宅敏恒『線形代数の演習』（培風館）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 代数学Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 抽象代数学の初歩 ＜到達目標＞ 抽象的な群や環の概念を学ぶための手始めとして、次を目指す。 （１）初等整数論について理解することができる （２）群についての準同型定理を理解することができる			
授業の概要 抽象代数学の初歩理論として、代数系の理論を学ぶ。具体的には、 （１） 数と演算の性質 （２） 群 （３） 準同型定理			
授業計画 第1回：整数の基本的性質 第2回：合同式 第3回：オイラーの関数・メビウスの関数 第4回：群の定義 第5回：群の例 第6回：部分群 第7回：一般結合法則 第8回：まとめと中間試験 第9回：巡回群 第10回：群の位数 第11回：部分群 第12回：正規部分群、剰余群 第13回：準同型写像、準同型定理 第14回：直積 第15回：まとめ			
テキスト 新妻弘・木村哲三『群・環・体 入門』（共立出版）			
参考書・参考資料等 新妻弘『演習 群・環・体入門』（共立出版）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 幾何学序論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 初等幾何と解析幾何の基本的な話題 ＜到達目標＞ （１）合同相似などの初等幾何学の基本概念を取り扱う中で、命題論理・述語論理など証明技法の基礎を理解することができる （２）作図問題と代数方程式との関連や非ユークリッド幾何学の概念などの現代数学の話題に親しみ、専門的内容を理解するための基礎力を身につけることができる			
授業の概要 小・中・高等学校の算数・数学の学習内容のうち幾何学的領域を系統的に再考察するとともに、現代数学における幾何学体系について解説する。			
授業計画 第1回：ピタゴラスの定理とその証明 第2回：ハップスの中線定理 第3回：ピタゴラス数 第4回：ピタゴラスの定理と余弦定理 第5回：辺の長さや角の大きさに関する定理 第6回：角の二等分線と辺の比に関する定理 第7回：古代エジプトとバビロニアの数学 第8回：タレスの数学 第9回：まとめと中間試験 第10回：ユークリッド『原論』 第11回：定義と公準に関する補足 第12回：アルキメデスの漸化式 第13回：無限級数による近似 第14回：πの無理数性 第15回：まとめ			
テキスト 大田春外「高校と大学をむすぶ 幾何学」（日本評論社）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 幾何学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村瀬 雅俊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 初等幾何と解析幾何 ＜到達目標＞ 幾何学における代数的・解析的な方法の習得を目指して、初等的な幾何学の題材において実践的な計算ができるようになる			
授業の概要 初等幾何と解析幾何の基本的な話題を扱う。具体的には、 （１）初等幾何の基本的な話題を通して、数学における「証明」の意味について考える （２）幾何学の歴史 （３）座標平面上の幾何 （４）行列と一次変換 （５）合同と相似 （６）二次曲線			
授業計画 第１回：重心と内心 第２回：外心、垂心、傍心 第３回：オイラーの定理と九点円の定理 第４回：方べきの定理 第５回：メネラウスの定理とチェバの定理 第６回：座標平面とベクトル 第７回：直線の方程式 第８回：まとめと中間試験 第９回：行列とその演算 第１０回：写像 第１１回：一次変換と表現行列の正則性 第１２回：合同変換と相似変換 第１３回：直交行列と直交変換 第１４回：放物線、楕円、双曲線 第１５回：焦点と接線の性質			
テキスト 大田春外「高校と大学をむすぶ 幾何学」（日本評論社）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 試験：100％（中間50％、期末50％）			

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 集合論 ＜到達目標＞ 距離空間についての幾何学の基礎を学ぶことが学習の目的になる。 （１）集合の演算を理解し、利用できる （２）写像の諸性質について理解し、利用できる （３）集合の濃度について理解できる （４）同値関係と類別について理解できる （５）順序集合について理解できる （６）Zorn（ツォルン）の補題について理解できる			
授業の概要 論理、集合論、距離空間の初歩について学習する。 集合論はあらゆる数学を学ぶ上で必要不可欠である。集合と写像の概念こそがすべての数学の始まりと言っても過言でない。本講義では、集合の演算と写像の定義から始め、同値関係や順序関係などの二項関係、集合の濃度、選択公理と Zorn(ツォルン)の補題など、集合論の基礎的な内容を扱う。			
授業計画 第1回：集合とその基本演算 第2回：命題と論理演算 第3回：直積集合と写像 第4回：像と逆像、全射・単射・全単射 第5回：同値関係と分類 第6回：集合演算の拡張 第7回：実数の公理・カントル集合 第8回：中間試験 第9回：有限と無限 第10回：順序集合 第11回：Zornの補題 第12回：ユークリッド空間・距離空間 第13回：点列の収束 第14回：連続写像・位相同型写像 第15回：連続関数の空間と関数列の収束			
テキスト 「はじめての集合と位相」 太田春外著、日本評論社			
参考書・参考資料等 藤田博司『「集合と位相」をなぜ学ぶのか ― 数学の基礎として根づくまでの歴史』（技術評論社）			
学生に対する評価	試験：100%（中間50%、期末50%）		

授業科目名： 幾何学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 位相空間論初歩と位相幾何の初歩 ＜到達目標＞ （１）集合論の基礎概念、および位相空間論の基本概念を理解し、ユークリッド空間の位相を距離空間の観点から論理的に扱うことができる （２）位相幾何の初歩を理解することができる			
授業の概要 距離空間の概念は現代数学を理解する上で必要不可欠である。実際、代数学・幾何学・解析学等、数学のあらゆる分野で利用されている また、一般位相について、各公理系による位相の定義、積位相の定義、連続写像の基本的性質、連結位相空間、コンパクト位相空間、分離公理について学び、現代数学、特に幾何学、解析学を学ぶための基礎概念としての位相空間論について扱う。			
授業計画 第 1 回：ユークリッド幾何学とトポロジー 第 2 回：ユークリッド空間とその図形 第 3 回：図形の変形と写像 第 4 回：連続写像 第 5 回：位相同型写像といろいろな距離 第 6 回：距離空間 第 7 回：距離空間の間の連続写像と位相同型写像 第 8 回：まとめと中間試験 第 9 回：距離空間の開集合と閉集合 第 1 0 回：距離空間の開集合系 第 1 1 回：位相空間 第 1 2 回：コンパクト空間とコンパクト集合 第 1 3 回：最大値・最小値の定理 第 1 4 回：連結空間と連結集合 第 1 5 回：中間値の定理とその応用・			
テキスト 太田春外「はじめよう 位相空間」（日本評論社）			
参考書・参考資料等 藤田博司『「集合と位相」をなぜ学ぶのか ― 数学の基礎として根づくまでの歴史』（技術評論社）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 幾何学Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 村瀬 雅俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 曲線と曲面の微分幾何学 ＜到達目標＞ （１）様々の曲線の性質を調べることに微分積分学の手法を応用し、その有効さを知ることができる （２）微分積分学の応用と微分幾何学の基礎を習得することができる			
授業の概要 （１）曲線について （２）曲面について （３）多様体論立場からの曲面論について			
授業計画 第1回：曲線 第2回：曲率とフルネの公式 第3回：閉曲線 第4回：うずまきの幾何 第5回：空間曲線 第6回：曲面 第7回：第一基本形式 第8回：第二基本形式 第9回：まとめと中間試験 第10回：測地線とガウス・ボンネの定理 第11回：ガウス・ボンネの定理の証明 第12回：微分形式 第13回：多様体の場合のガウス・ボンネの定理 第14回：ラプラシアンと等温座標系 第15回：ガウス方程式とコダッチ方程式			
テキスト 「曲線と曲面(改訂版)－微分幾何的アプローチ」梅原雅顕・山田光太郎著、裳華房			
参考書・参考資料等 中内伸光『じっくり学ぶ曲線と曲面－微分幾何学初歩』（共立出版）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 解析学序論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱谷 義弘
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 初等関数の基本的性質の理解、数列と関数の関連性			
＜到達目標＞			
（１）高等学校数学Ⅱまでで習う初等関数の基本的性質の理解と確実な計算能力を身に付けることができる			
（２）数学教員として持ち合わせるべき数学的素養を身につけることができる			
授業の概要			
高等学校で学ぶ関数（初等関数）の扱いを確かなものにする事で、その後に学習する大学における微分積分にスムーズに移行できるようにする。内容としては			
（１）数列			
（２）初等関数とその性質（指数関数・対数関数・三角関数とそのグラフ等について）			
（３）初等関数の微分・積分			
授業計画			
第１回：数列の基本（等差数列、等比数列、階差数列）			
第２回：数列の応用（漸化式、数学的帰納法）			
第３回：様々な関数			
第４回：指数関数とその応用			
第５回：対数関数とその応用			
第６回：三角比とその応用			
第７回：三角関数とその性質			
第８回：三角関数の様々な公式			
第９回：まとめと中間試験			
第１０回：関数の極限			
第１１回：導関数			
第１２回：関数のグラフとその応用			
第１３回：いろいろな関数の不定積分			
第１４回：いろいろな関数の定積分			
第１５回：面積と体積			
テキスト 岡本和夫『新版 微分積分』（実教出版）			
参考書・参考資料等 高等学校教科書「数学Ⅰ」「数学Ａ」「数学Ⅱ」「数学Ｂ」「数学Ⅲ」			
学生に対する評価			
試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：濱谷 義弘
解析学Ⅰ	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 1 変数関数の極限、連続性、微分法・積分法とその応用			
＜到達目標＞ 高等学校数学までの既習事項を踏まえて、初等関数とその微分及び積分を学ぶ。			
（１）関数の極限・連続性が理解できる			
（２）導関数およびその応用について理解できる			
（３）原始関数・不定積分・定積分について理解できる			
授業の概要			
自然科学分野における最も基礎的な学問の一つである微分積分学の入門段階として、1 変数関数の微分及び積分の基礎を学ぶ。具体的には、			
（１）関数の極限および連続性			
（２）関数の導関数			
（３）微分の応用			
（４）原始関数・不定積分・定積分			
（５）積分の応用			
授業計画			
第1回：実数			
第2回：連続関数			
第3回：初等関数			
第4回：ε 論法			
第5回：関数の微分			
第6回：曲線の接線			
第7回：平均値の定理・ロピタルの定理			
第8回：高次の導関数			
第9回：ライプニッツの公式、テイラーの定理			
第10回：まとめと中間試験			
第11回：定積分と不定積分			
第12回：積分の計算			
第13回：広義積分			
第14回：区分求積法			
第15回：図形の面積と曲線の長さ			
テキスト 三宅敏恒『入門微分積分』（培風館）			
参考書・参考資料等 三宅敏恒『微分積分の演習』（培風館）			
学生に対する評価			
試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 解析学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱谷 義弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 多変数関数の微分法・積分法とその応用 ＜到達目標＞ 様々な2変数関数の微分・積分を計算ができるようになることを目標とする。 （1）偏微分を理解し、その計算ができるよう （2）陰関数定理を理解し、極値問題が解決できる （3）重積分を理解し、その計算ができる （4）体積計算ができる			
授業の概要 「解析学Ⅰ」の続きとして、多変数関数の微分積分について学ぶ。主な内容としては以下の通りである。 （1）偏微分を理解し、その応用について考察する （2）重積分を理解し、その応用について考察する （3）級数の基本について学ぶ			
授業計画 第1回：多変数の関数 第2回：全微分可能性と合成関数の微分 第3回：高次の偏導関数とテーラーの定理 第4回：陰関数の定理 第5回：重積分 第6回：重積分と変数変換 第7回：まとめと中間試験 第8回：線積分とグリーンの定理 第9回：領域の面積 第10回：重積分の応用（体積と曲面積） 第11回：ガンマ関数とベータ関数 第12回：広義の重積分 第13回：級数 第14回：整級数 第15回：まとめ			
テキスト 三宅敏恒『入門微分積分』（培風館）			
参考書・参考資料等 三宅敏恒『微分積分の演習』（培風館）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 解析学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 祐一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 常微分方程式 ＜到達目標＞ 「1階線形常微分方程式」、「定数係数2階線形常微分方程式」の解法を学び、常微分方程式の解法のみならず、物理現象の理解を目指す。 （1）微分方程式の基本的な事項（一般解、特殊解、初期値、境界値）について理解できる （2）簡単な微分方程式を様々な解法により解くことができる			
授業の概要 「解析学Ⅰ・Ⅱ」の1つの発展として常微分方程式論の初歩を学ぶ。内容は （1）変数分離形の微分方程式の解法 （2）同次形の微分方程式の解法 （3）完全微分形の微分方程式の解法 （4）線形微分方程式の解法			
授業計画 第1回：正規形の微分方程式の解の存在 第2回：一階の微分方程式の解曲線 第3回：変数分離形の微分方程式と全微分方程式 第4回：同次形の微分方程式 第5回：変数分離形に変形できる微分方程式 第6回：一階の線形微分法方程式と応用 第7回：完全微分形の微分方程式 第8回：まとめと中間試験 第9回：n次の一階微分方程式 第10回：ラグランジュの微分方程式、およびその他の方程式 第11回：線形微分方程式 第12回：逆微分演算子 第13回：オイラーの微分方程式 第14回：連立線形微分方程式 第15回：連立全微分方程式			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 三宅敏恒『微分方程式 やさしい解き方』培風館			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 解析学Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 上野 祐一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 複素関数論 ＜到達目標＞ 複素変数の関数の微積分について学ぶ。 （１）複素数について理解できる （２）複素平面の幾何について理解できる （３）正則関数について理解できる （４）べき級数と初等関数に関する基礎を理解できる			
授業の概要 複素関数論の理論について学び、実関数への応用について考察する。 （１）複素積分 （２）コーシーの積分定理、積分公式 （３）留数			
授業計画 第 1 回：複素数・複素数の絶対値・極形式 第 2 回：べき乗とべき根 第 3 回：複素変数の関数 第 4 回：極限・連続関数・導関数と微分公式 第 5 回：コーシー・リーマンの関係式・正則関数 第 6 回：初等関数 第 7 回：まとめと中間試験 第 8 回：線積分 第 9 回：コーシー・グルサの定理・コーシーの積分公式 第 1 0 回：数列・級数 第 1 1 回：テータ級数・ローラン級数 第 1 2 回：べき級数の性質 第 1 3 回：留数と留数の求め方 第 1 4 回：実関数の定積分 第 1 5 回：まとめ			
テキスト 特に指定しない 川平 友規『入門 複素関数』（裳華房）			
参考書・参考資料等 R. V. チャーチル／J. W. ブラウン著 中野實訳『複素関数入門 原書第 4 版 新装版』（数学書房）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 確率・統計学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱谷 義弘
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 確率			
＜到達目標＞			
（１）確率空間、確率変数、確率分布の概念を理解できる			
（２）二項分布、ポアソン分布、正規分布を理解できる			
（３）確率空間、確率変数、確率分布の概念を理解し、具体例を扱うことができる			
（４）確率や平均などを具体的に計算できる			
授業の概要			
確率論と数理統計学の基礎的な内容を学ぶ。			
また、確率、平均・分散・標準偏差、分布等について理解する。			
授業計画			
第1回：場合の数			
第2回：試行と事象・確率の意味			
第3回：確率の計算			
第4回：事象の独立性			
第5回：乗法定理、ベイズの定理			
第6回：確率変数と確率分布			
第7回：期待値、分散、標準偏差			
第8回：まとめと中間試験			
第9回：基準化、偏差値			
第10回：積率母関数			
第11回：二項分布			
第12回：分布、幾何分布			
第13回：確率変数の和と積			
第14回：確率変数の独立性			
第15回：二項分布のポアソン分布による近似			
テキスト 服部哲也『第2版 確率分布と統計入門』（学術図書出版社）			
参考書・参考資料等 服部哲也『理工系の確率・統計入門』（学術図書出版社）			
学生に対する評価			
試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： 確率・統計学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱谷 義弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業の到達目標及びテーマ ＜テーマ＞ 統計学 ＜到達目標＞ （１）データを解析するときの統計の考え方を理解できる （２）推定・検定の考え方を理解できる （３）代表値や散布度，相関係数を求めることができる （４）推定・検定の考え方を理解し、具体例を扱うことができる			
授業の概要 時間とともに変化する確率変数を対象とする確率過程について学び、身近な社会現象や自然現象を理解する上で重要であることを知る。特に、正規分布に基づいて定められる偏差値について学ぶことは将来教員になった際に役立つことになるであろう。 また、統計的推定・検定について実生活への結び付きについても学ぶ。			
授業計画 第1回：度数分布表 第2回：四分位数 第3回：資料の平均と標準偏差 第4回：データと確率変数 第5回：2変量の解析 第6回：最小2乗法 第7回：正規分布 第8回：正規分布の再帰性 第9回：標準正規分布 第10回：中心極限定理 第11回：二項分布の正規分布による近似 第12回：母集団と標本 第13回：点推定と区間推定 第14回：検定 第15回：まとめ			
テキスト 服部哲也『第2版 確率分布と統計入門』（学術図書出版社）			
参考書・参考資料等 服部哲也『理工系の確率・統計入門』（学術図書出版社）			
学生に対する評価 試験：100%（中間50%、期末50%）			

授業科目名： コンピュータ概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：張 磊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ 〈テーマ〉 プログラミングの基礎 〈到達目標〉 （１）プログラミングの基礎を習得することができる （２）プログラミング教育とは何かを理解できる （３）基本的なプログラミングができる			
授業の概要 プログラミング基礎を解説する。プログラミング言語や教育用ロボットを用いながら、プログラミングの基礎的な知識とスキルを学ぶ。初歩から始めるので、プログラミングの初心者でも受講可能である。デジタル情報、2進数での数値の表現から始まり、プログラムの作り方、アルゴリズムの設計に関する考え方、データ構造等を解説する。毎回プログラム例を示し、解説を加える。例題を基に応用問題のプログラミングを実習する。			
授業計画 第1回：デジタル情報、2進数（基礎） 第2回：デジタル情報、2進数（応用） 第3回：プログラムの作り方（基礎） 第4回：プログラムのり方（応用） 第5回：プログラムの作り方（発展） 第6回：プログラムの作り方（まとめ） 第7回：アルゴリズムの設計（基礎） 第8回：アルゴリズムの設計（応用） 第9回：アルゴリズムの設計（発展） 第10回：アルゴリズムの設計（まとめ） 第11回：データ構造（基礎） 第12回：データ構造（応用） 第13回：データ構造（発展） 第14回：応用問題のプログラミング 第15回：発展的な応用問題のプログラミング			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 黒上晴夫、堀田達也『プログラミング教育—思考のアイデアー』（小学館） 文部科学省『プログラミング教育』 『大学生のための情報リテラシー』共立出版			
学生に対する評価		実践活動80%、振り返りとレポート20%	

授業科目名： コンピュータ演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 張 磊
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ 〈テーマ〉 プログラミングの基礎と演習 〈到達目標〉 （１）プログラミングの基礎を習得することができる （２）プログラミング教育とは何かを理解できる （３）基本的なプログラミングができる			
授業の概要 C言語の基礎について、変数、関数、制御文、ポインタなどの基本的な概念・記述方法を順番に解説するとともに、各学習事項について実際にプログラミング演習を通して、それらを実践的に理解する。			
授業計画 第1回：C言語の基礎 第2回：変数とデータ型 第3回：演算子 第4回：if文 第5回：switch文 第6回：for文，while文 第7回：配列 第8回：ポインタの基礎 第9回：ポインタの応用 第10回：文字列 第11回：関数の基礎 第12回：関数の応用 第13回：構造体 第14回：ファイル操作 第15回：エラー処理			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 文部科学省『プログラミング教育』 『大学生のための情報リテラシー』 共立出版			
学生に対する評価 実践活動80%、振り返りとレポート20%			

授業科目名： 数学科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 祐一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 中学校数学科の教材と指導法			
＜到達目標＞ 中学校数学科の指導教材に対する理解を深め、その指導方法において分かりやすい教え方を考え、実践力を身に付ける。			
(1) 中学校数学科の基本的な指導内容・方法について理解し、指導案を作成することができる			
(2) 中学校数学科の授業を実践するための基礎的な知識・技能について理解できる			
授業の概要			
中学校で扱う教材について、教材研究を行う上で必要な専門的知識や考え方を学ぶとともに、各教材の重視すべき指導点及び指導上留意すべき点について学習する。			
授業計画			
第1回：中学校数学の学習指導要領、数学科教育の目標及び全体構造の理解			
第2回：なぜ数学を学ぶのか、数学の学力とは何か			
第3回：数学教育における評価方法と学習指導案の書き方について			
第4回：教材研究①：正の数・負の数、文字を用いた式、一元一次方程式			
第5回：教材研究②：文字式を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式			
第6回：教材研究③：平方根、式の展開と因数分解、二次方程式			
第7回：教材研究④：平面図形、空間図形			
第8回：教材研究⑤：平面図形と平行線の性質、図形の合同			
第9回：教材研究⑥：図形の相似、円周角と中心角、三平方の定理			
第10回：教材研究⑦：比例、反比例、一次関数			
第11回：教材研究⑧：関数 $y=ax^2$			
第12回：教材研究⑨：資料のちらばりと代表値			
第13回：教材研究⑩：確率			
第14回：教材研究⑪：標本調査			
第15回：まとめ			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編理数編』			
学生に対する評価			
毎回の課題レポート 80%、平常点(発表・討議)10%、最終レポート 10% 課題等は講義中に指示する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 祐一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 中・高等学校数学科における数学的活動を促す学習指導について			
＜到達目標＞ 数学的活動とその方法について、特に教材論的考察を通じて理解し、実践的指導力を身に付けていくための土台を養うことを目標とする			
授業の概要 以下の三点を中心に授業を行う。			
(1) 数学科の教育内容とその周辺概念について基礎的知識を得る			
(2) 数学科での教育内容を通じた生徒の学習活動の在り方について考察する			
(3) (1)、(2)を踏まえ、数学的活動を通して、これから数学の学習を通して求められる資質・能力について知り、考察を深める			
授業計画			
第1回：数学的活動を促す数学科の学習指導とは			
第2回：数学教育の目的と数学的な見方・考え方を働かせる授業設計について			
第3回：数学科における教育内容Ⅰ：数に関する教育内容			
第4回：数学科における学習活動Ⅰ：数に関する内容に関連して			
第5回：数学科における教育内容Ⅱ：式に関する教育内容			
第6回：数学科における学習活動Ⅱ：式に関する内容に関連して			
第7回：数学科における教育内容Ⅲ：関数に関する教育内容			
第8回：数学科における学習活動Ⅲ：関数に関する内容に関連して			
第9回：ICTを用いた学習活動と数学的探究			
第10回：数学科における教育内容Ⅳ：図形と論証に関する教育内容			
第11回：数学科における学習活動Ⅳ：図形に関する内容に関連して			
第12回：数学科における学習活動Ⅳ：論証に関する内容に関連して			
第13回：数学科における教育内容Ⅴ：確率・統計に関する教育内容			
第14回：数学科における学習活動Ⅴ：確率・統計に関する内容に関連して			
第15回：数学的活動に対する評価方法について			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 算数編』			
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編理数編』			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』			
学生に対する評価			
毎回の課題レポート 80%、平常点(発表・討議)10%、最終レポート 10%			
課題等は講義中に指示する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択必修（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 祐一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 高等学校数学科の教材と指導法			
＜到達目標＞ 高等学校数学科の指導教材に対する理解を深め、その指導方法において分かりやすい教え方を考え、実践力を身に付ける。			
(1) 高等学校数学科の基本的な指導内容・方法について理解し、指導案を作成することができる			
(2) 高等学校数学科の授業を実践するための基礎的な知識・技能について理解できる			
授業の概要			
高等学校で扱う教材について、教材研究を行う上で必要な専門的知識や考え方を学ぶとともに、各教材の重視すべき指導点及び指導上留意すべき点について学習する。			
授業計画			
第1回：高等学校数学の学習指導要領、数学科教育の目標及び全体構造の理解			
第2回：高等学校数学教育における評価方法と学習指導案の書き方について			
第3回：教材研究①：数と式、図形と計量			
第4回：教材研究②：二次関数、データの分析			
第5回：教材研究③：いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数			
第6回：教材研究④：三角関数、微分・積分の考え			
第7回：教材研究⑤：平面上の曲線と複素数平面、極限			
第8回：教材研究⑥：微分法、積分法			
第9回：教材研究⑦：場合の数と確率、整数の性質			
第10回：教材研究⑧：図形の性質			
第11回：教材研究⑨：確率分布と統計的な推測			
第12回：教材研究⑩：数列、ベクトル			
第13回：教材研究⑪：数学と人間の活動			
第14回：教材研究⑫：社会生活における数理的な考察			
第15回：まとめ			
テキスト 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編理数編』			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』			
学生に対する評価			
毎回の課題レポート 80%、平常点(発表・討議)10%、最終レポート 10% 課題等は講義中に指示する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択必修（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 祐一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
＜テーマ＞ 模擬授業を通した指導案の書き方と分かりやすい授業について			
＜到達目標＞ 中学校・高等学校の数学の教材内容について、理解を深め、関連する内容について広い視野でみることで、分かりやすい授業のできる技量を得る			
授業の概要			
中学校・高等学校の数学の教材を用いて、指導案を作り、板書計画を立て、副教材（プリントなど）を作り模擬授業を行う。それに対して、ディスカッションを行い、お互いの技量を高める。受け身ではなく、自ら考え意見交流することで、理解を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、授業設計や模擬授業の方法、学習指導案の書き方など）			
第2回：模擬授業①：中学校数学（正の数・負の数、文字を用いた式、一元一次方程式、文字式を用いた式の四則計算、連立二元一次方程式）			
第3回：模擬授業②：中学校数学（平方根、式の展開と因数分解、二次方程式、平面図形、空間図形）			
第4回：模擬授業③：中学校数学（平面図形と平行線の性質、図形の合同）			
第5回：模擬授業④：中学校数学（図形の相似、円周角と中心角、三平方の定理）			
第6回：模擬授業⑤：中学校数学（比例、反比例、一次関数、 $y=ax^2$ ）			
第7回：模擬授業⑥：中学校数学（資料のちらばりと代表値）			
第8回：模擬授業⑦：中学校数学（確率、標本調査）			
第9回：模擬授業⑧：高等学校数学（数と式、図形と計量、二次関数、データの分析）			
第10回：模擬授業⑨：高等学校数学（いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え）			
第11回：模擬授業⑩：高等学校数学（平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法、積分法）			
第12回：模擬授業⑪：高等学校数学（場合の数と確率、整数の性質）			
第13回：模擬授業⑫：高等学校数学（図形の性質、確率分布と統計的な推測）			
第14回：模擬授業⑬：高等学校数学（数列、ベクトル）			
第15回：模擬授業⑭：高等学校数学（数学と人間の活動、社会生活における数理的な考察）			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編理数編』			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』			
学生に対する評価			
毎回の課題レポート 80%、平常点(発表・討議)10%、最終レポート 10% 課題等は講義中に指示する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：井上兼一
介護等体験実習	必修科目（中）	1 単位	担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
「小学校及び中学校の教諭の普通免許状に係る教育職員免許状の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）に基づく実習を実施する科目である。 「介護等体験」に係る事前事後の指導と連動して、実習を円滑に実施できるようにするとともに、高齢者や障害のある人々の生活実態や支援についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 ① 介護等体験が円滑に実施できるよう事前の準備ができています。 ② 高齢者や障害のある人々の特徴及び言葉がけなどのコミュニケーションについて理解を深める。 ③ 教職への意欲・態度及び価値観や責任感を形成する			
授業の概要			
事前指導は、テキストを中心に本学教員や学外講師の講義を通じて授業を展開する。 事後指導は、実習体験について個人及びグループで振り返りを行い、受講生同士で学びと気づきを深める。フィードバックについては、提出物（レポートや実習日誌）の返却・講評を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：介護等体験を受講するにあたっての基本的事項と心構え			
第3回：介護等体験のために必要な事前の知識の確認			
第4回：外部講師講話（三重県社会福祉協議会実習担当者）			
第5回：外部講師講話（特別支援学校実習担当者）			
第6回：特別支援学校及び社会福祉施設での体験実習の実際をビデオ教材を視聴し学習			
第7回：介護等体験にあたっての日誌の書き方指導			
第8回：事後指導：小グループに分かれ、それぞれの体験学習の内容を発表、共有（気づきと振り返り）			
テキスト 全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟編『介護等体験ガイドブック 新フィリア』（ジアース教育新社）			
『よくわかる社会福祉施設』（社会福祉法人全国社会福祉協議会）			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価			
実習に関わる諸活動、課題・レポートの取り組み、実習日誌及びワークシートの内容、事後指導の成果により総合的に評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：富永 健
法学（日本国憲法）	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める	日本国憲法		
科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ			
憲法に関する基礎的・専門的な知識を習得する。			
日本国憲法をめぐる生じている諸問題について説明することができる。			
この授業で培う力＝①論理的思考力、②意欲・態度及び価値観			
授業の概要			
本講義は、憲法の基本原理、人権保障、統治の組織・作用について解説し、憲法に関する基礎的・専門的な知識を習得すること、および憲法に対する見識を高め、物事を論理的に思考する力を身につけることを目的とする。憲法を学ぶ上で最も重要なことは、単に条文や結論を覚えるのではなく、なぜそのような結論になるのかという思考の過程である。そのためには、文言の正確な把握、歴史的な背景・比較法的な知識が要求される。また、憲法問題を理解するためには、判例に注目する必要がある。こうした点に配慮して授業をすすめる。			
授業計画			
第1回：憲法の基礎的事項（憲法の意味・憲法の歴史など）の解説			
第2回：天皇（天皇の地位・権能、皇位継承、皇室経済）についての解説			
第3回：戦争の放棄（憲法第9条の解釈、わが国の安全保障）についての解説			
第4回：人権総論（人権の意義・享有主体・人権の適用範囲）についての解説			
第5回：幸福追求権、法の下での平等についての解説			
第6回：精神的自由権（思想良心の自由、信教の自由）についての解説			
第7回：精神的自由権（表現の自由）についての解説			
第8回：経済的自由権についての解説			
第9回：身体的自由権についての解説			
第10回：社会権についての解説			
第11回：民主制についての解説			
第12回：国会についての解説（1）			
第13回：国会についての解説（2）			
第14回：内閣についての解説			
第15回：裁判所についての解説			
定期試験			
テキスト 『教養憲法11章』 富永健ほか著 嵯峨野書院			
参考書・参考資料等			
大石眞『憲法Ⅰ』第3版 有斐閣、毛利透ほか『憲法Ⅱ』 有斐閣			
学生に対する評価			
期末レポート（70点）および小テスト（30点）による。			

授業科目名： スポーツⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：叶俊文 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
スポーツⅠを通して、自信の体力の現状を理解し、心身の変化を体感することで、運動と健康の 関係の観点から、スポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、社会において必要とされる 知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えることを目標 とする。			
授業の概要			
スポーツ種目として、フライングディスクを使った様々な運動とスラックラインによる体幹ト レーニング、なわとびを実施して自身の体力の現状の理解と維持、運動することの楽しさを確認 していく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションと講義内容の確認			
第2回：フライングディスクの投げ方の確認 スラックラインの設置の仕方を理解する			
第3回：班分けによるフライングディスクでのキャッチボール スラックラインの乗り方			
第4回：班ごとに投げ方の工夫と指導 スラックラインの乗り方 なわとび二重とび			
第5回：班ごとのキャッチボール競争 スラックラインの乗り方の工夫 なわとび二重とび			
第6回：スラックラインのテスト なわとび二重とびのテスト			
第7回：フライングディスクを正確に投げる練習 スラックラインの乗り方の工夫			
第8回：フライングディスクをコーンに当てる練習 なわとび・あやかけ二重とび			
第9回：フライングディスクのPK戦予選 スラックラインを歩く なわとび・あやかけ二重とび			
第10回：フライングディスクのPK戦決勝 スラックラインを歩く なわとび・あやかけ二重とび			
第11回：フライングディスクのディスタンステスト			
第12回：ディスクゴルフの練習 レポート課題提示			
第13回：ディスクゴルフ第1ラウンド スラックラインを歩く なわとび三重とび			
第14回：ディスクゴルフ第2ラウンド スラックラインを歩く なわとび三重とび			
第15回：スキルテスト：ディスク スラックライン			
定期試験：レポートの提出			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 ニューススポーツ百科 それぞれの動画			
学生に対する評価 フリスビーとスラックラインの実技能力 80% 、レポート作成 20%			

授業科目名： スポーツⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：叶俊文 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業の到達目標及びテーマ スポーツⅡを通して、自身の体力の現状を理解し、心身の変化を体感することで、運動と健康の関係の観点から、スポーツ活動の必要性、意義を理解するとともに、運動することの楽しさを理解していく。また、社会において必要とされる知識・技能と、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力を備えることを目標とする。			
授業の概要 スポーツ活動として、フライングディスクを使ったアルテミットという競技に触れていく。この競技は団体競技であり、学生間の関係性を構築しながら、競技を楽しめるようにしていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容の理解 第2回： 班分け フライングディスクの投げ方、キャッチの仕方を理解する 第3回： 距離を伸ばしてディスクの投げ方、キャッチの仕方を考える 第4回： 班内でのセルフディスタンスの練習 第5回：ディスタンスのスキルテスト1 第6回：男女混合チーム分け アルテミットの試合形式の練習 第7回：アルテミットの試合形式の練習 記録用紙のつけ方の練習 第8回：男女混合チームでのリーグ戦1 試合後のふりかえり 第9回：男女混合チームでのリーグ戦2 試合後のふりかえり 第10回：ディスタンスのスキルテスト2 レポート課題の提示 第11回：男女別のチーム分け チームごとの練習 第12回：男女別のリーグ戦1 試合後のふりかえり 第13回：男女別のリーグ戦2 試合後のふりかえり 第14回：男女別のリーグ戦3 試合後のふりかえり 第15回：ディスタンスのスキルテスト3 定期試験：レポート課題			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 ニュースポーツ百科 アルテミットの動画			
学生に対する評価 フリスビーの実技能力と試合でのパス成功率 80% 、レポート作成 20%			

授業科目名：武道Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐藤武尊 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 柔道の特性および柔道に附随する傷害、事故発生時の対処法を説明することができる。			
2. 自らの体力について知り、個々の能力を十二分に発揮することができる。			
3. 柔道の基本的な技術を習得し、その説明をすることができる。			
4. 技の理合いを体得し、安全で楽しい柔道の攻防（乱取）を行うことができる。			
授業の概要			
実技を中心とした安全に十分配慮した授業を行う。また、自らが指導者になった場合、安全な柔道を展開していくためには何が必要・重要かを考える。適宜、必要に応じたフィードバックを行っていく。			
〔授業計画〕			
第1回：【オリエンテーション】実技実施時の注意点などの確認。グループ分けなどを行う。			
第2回：【柔道の特性】柔道の特性についての説明。			
第3回：【柔道に附随する傷害】柔道に附随する傷害および事故発生時の対処法についての説明。			
第4回：【柔道の特性と柔道に附随する傷害】第2目と第3回目の内容のまとめ。			
第5回：【基本動作1】柔道衣の着方、礼法、柔道独自のウォーミングアップ方法、受身などの説明。			
第6回：【基本動作2】受身の説明、組み方の説明。			
第7回：【基本動作3】受身、体捌き、崩しなどの説明。			
第8回：【基本の技の説明1】柔道投技の「膝車」、「大外刈」の説明。			
第9回：【基本の技の説明2】柔道投技の「大内刈」、「体落」の説明。			
第10回：【基本の技の説明3】柔道投技の「大腰」、「背負投」の説明。			
第11回：【動きの中で技を掛ける】習得してきた技を動きの中で施す際の説明。			
第12回：【技の連絡変化】習得してきた技を連絡変化で施す際の説明。			
第13回：【基本の技を使った乱取】習得した投技および技の連絡変化を用いて、安全な乱取を行う。			
第14回：【基本の技を使った乱取】習得した投技および技の連絡変化を用いて、安全な乱取を行う。			
第15回：【基本の技を使った乱取】安全な乱取を行う。習得してきた技術内容をまとめる。			
〔定期試験〕授業中に配布された資料および授業中に行った説明に関する理解度を測るための筆記試験と実技試験を平均し、その平均値に授業に積極的に取り組む姿勢加味した点数で評価する。			
テキスト 柔道教科書アプリ「JUDO SENSEI！」			
学生に対する評価			
1. 筆記試験では、柔道の特性および柔道に附随する傷害、事故発生時の対処法などの理解力の評価を行う。2. 実技試験では、柔道の基本動作および技術についての評価を行う。3. 授業中の姿勢については、柔道の特性を理解したうえで、①安全かつ真剣に取り組んでいるか、②相手を思いやり仲間と協力しながら取り組んでいるか、などを中心に評価を行う。			

授業科目名：武道Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤武尊 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 「柔道の歴史と狙い」や「行」、「礼」について説明することができる。			
2. 自らの体力について知り、個々の能力を十二分に発揮することができる。			
3. 柔道の基本的な技術を習得し、その説明をすることができる。			
4. 技の理合いを体得し、安全で楽しい柔道の攻防（乱取）を行うことができる。			
授業の概要			
実技を中心とした安全に十分配慮した授業を行う。また、自らが指導者になった場合、安全な柔道を展開していくためには何が必要・重要かを考える。適宜、必要に応じたフィードバックを行っていく。			
[授業計画]			
第1回：【オリエンテーション】実技実施時の注意点などの確認。			
第2回：【基本の技の説明1】柔道固技の「袈裟固」、「後ろ袈裟固」、「横四方固」の説明を行う。			
第3回：【基本の技の説明2】柔道固技の「縦四方固」、「肩固」の説明を行う。			
第4回：【寝技世界一周】柔道固技の攻め方と応じ方の説明を行う。			
第5回：【固技】うつぶせの相手への攻め方についての説明を行う。（亀の状態）			
第6回：【固技】うつぶせの相手への攻め方についての説明を行う。（腹ばいの状態）			
第7回：【固技】自分が仰向けになった状態からの攻め方についての説明を行う。（引き込み返し）			
第8回：【固技を使った乱取】うつ伏せの状態を意識して、安全な乱取を行う。			
第9回：【固技を使った乱取】引き込みの状態を意識して、安全な乱取を行う。			
第10回：【投技および固技を用いた乱取】投技からのすばやい移行を意識して、安全な乱取を行う。			
第11回：【投技および固技を用いた乱取】投げた状態からを意識して、安全な乱取を行う。			
第12回：【投技および固技を用いた乱取】投げられた状態からを意識して、安全な乱取を行う。			
第13回：【試合】これまでに習得してきた礼法、および技術を用いて、試合を行う。リーグ戦1			
第14回：【試合】リーグ戦2を行う。これまでに習得してきた技術内容をまとめる。			
第15回：【総括】柔道の歴史と狙い等について配布資料をもとに説明する。その内容をまとめる。			
[定期試験] 授業中に配布された資料および授業中に行った説明に関する理解度を測るための筆記試験と実技試験を平均し、その平均値に授業に積極的に取り組む姿勢加味した点数で評価する。			
テキスト 柔道教科書アプリ「JUDO SENSEI！」			
学生に対する評価			
1. 筆記試験では、「柔道の歴史と狙い」や「行」、「礼」等についての理解力の評価を行う。2. 実技試験では、柔道の基本動作および技術についての評価を行う。3. 授業中の姿勢については、柔道の特性を理解したうえで、①安全かつ真剣に取り組んでいるか、②相手を思いやり仲間と協力しながら取り組んでいるか、などを中心に評価を行う。			

授業科目名： アダプテッド・スポーツⅠ		教員の免許状取得のため の選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：叶俊文 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育			
授業の到達目標及びテーマ アダプテッド・スポーツとは「障がい者や高齢者、子ども、あるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般をさす言葉」になります。それでもどのように身体を動かすことが重要なのか、身体の一部をどのように操作することが必要なのかを考えることは必要になります。少しずつ身体を動かしながら、生涯にわたって運動に親しむ土台を養います。また、社会において必要とされる知識・技能と課題解決のための思考力・判断力・表現力等の活用的な能力を備えることを目標にする				
授業の概要 障がいのある学生の受講も考えられるため、負担のかからないような運動を取り入れながら、身体を動かしていきます。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容を理解する 第2回：講義での目標設定をして、講義への取り組み方を考える 第3回：ウォーキング1 徴古館や倭姫宮などの神宮にまつわるコースの散策 第4回：ウォーキング2 大学周辺の地理を理解するコースの散策 第5回：グランドゴルフ練習1 距離感を体感する 第6回：グランドゴルフ練習2 簡易コースを体感する 第7回：グランドゴルフゲーム1 団体戦を行う 第8回：グランドゴルフゲーム2 個人戦を行う 第9回：ゲートボール練習 第1ゲートを通過するための練習 第10回：ゲートボール練習1 3つのゲートを通過するための簡易ゲーム 第11回：ゲートボール練習2 スパーク打撃を練習する 第12回：ゲートボール練習3 実際のゲームの体験と作戦の考え方 第13回：ゲートボールゲーム1 リーグ戦を行う 試合のふりかえり レポート課題の提示 第14回：ゲートボールゲーム2 リーグ戦を行う 試合のふりかえり 第15回：授業全体のふりかえりを行う 定期試験：レポート課題の提出				
テキスト 特に指定しない				
参考書・参考資料等 ニュースポーツ百科 グランドゴルフ、ゲートボールの動画から作戦を立案する				
学生に対する評価 ゲームでの評価とスキルの確認 60% 、レポート作成 40%				

授業科目名： アダプテッド・スポーツⅡ		教員の免許状取得のた めの選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：叶俊文
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ アダプテッド・スポーツとは「障がい者や高齢者、子ども、あるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般をさす言葉」になります。さまざまな状況の方でも楽しく運動できるように工夫されたスポーツを体験しましょう。自分に合った運動や自分が楽しめる運動を探求して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養っていくことを目標にします。				
授業の概要 障がいのある学生も受講することを考え、柔らかい運動を展開していきます。その中で、運動負荷を高めていきたいと思います。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容を理解する 第2回：講義での目標設定をして、講義への取り組み方を考える 第3回：ターゲットボード1 カーリングゲームを理解する 第4回：ターゲットボード2 カーリングゲームの試合をする 第5回：ターゲットボード3 陣取りゲームを理解する 第6回：ターゲットボード4 陣取りゲームの試合をする 第7回：卓球1 打球の打ち方の確認する 第8回：卓球2 シングルスとダブルスの試合の進め方を理解する 第9回：卓球3 ダブルスのリーグ戦を行う 第10回：卓球4 シングルのリーグ戦を行う レポート課題を提示 第11回：車椅子バスケットボール1 車椅子の使い方を理解する 第12回：車椅子バスケットボール2 シュートを打てるようにする 第13回：車椅子バスケットボール3 リーグ戦を行う 第14回：車椅子バスケットボール4 リーグ戦を行う 第15回：授業全体のふりかえり 定期試験：レポート課題				
テキスト 特に指定しない				
参考書・参考資料等 ニュースポーツ百科 車椅子バスケットボールなどの動画で学習する				
学生に対する評価 各ゲームでの評価と技能 60% 、レポート作成 40%				

授業科目名： 英語表現 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 川村一代、玉田貴裕 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語でのコミュニケーションを図る。			
(2) 英語のコミュニケーションが 4 技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3) コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
コミュニケーション能力を育成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の 4 技能をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 自己紹介の後、授業の目標・内容・進め方、評価の方法等について説明			
第 2 回：Unit 1 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 3 回：Unit 1 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 4 回：Unit 2 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 5 回：Unit 2 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 6 回：Unit 3 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 7 回：Unit 3 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 8 回：Unit 4 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 9 回：Unit 4 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 10 回：Unit 5 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 11 回：Unit 5 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 12 回：Unit 6 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 13 回：Unit 6 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 14 回：Unit 7 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 15 回：Unit 7 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
定期試験			
テキスト We Love LA! LA.イングリッシュ・ライフ			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価			
学期末試験、リスニングテスト、小テスト、意欲・学習状況等で評価する。			

授業科目名： 英語表現Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 川村一代、玉田貴裕
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
授業の到達目標及びテーマ (1)すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語での コミュニケーションを図る。			
(2) 英語のコミュニケーションが 4 技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3) コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
コミュニケーション能力を育成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の 4 技能をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 自己紹介の後、授業の目標・内容・進め方、評価の方法等について説明			
第 2 回：Unit 8 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 3 回：Unit 8 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 4 回：Unit 9 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 5 回：Unit 9 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 6 回：Unit 10 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 7 回：Unit 10 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 8 回：Unit 11 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 9 回：Unit 11 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 10 回：Unit 12 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 11 回：Unit 12 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 12 回：Unit 13 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 13 回：Unit 13 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
第 14 回：Unit 14 文法事項解説、語彙の確認 リスニング 音読練習 内容理解			
第 15 回：Unit 14 語彙の確認、文法事項解説、内容理解 英語で自己紹介文作成			
定期試験			
テキスト We Love LA! LA.イングリッシュ・ライフ			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学学生に対する評価			
学期末試験、リスニングテスト、小テスト、意欲・学習状況等で評価する。			

授業科目名： 英語表現Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡本裕子、メイヨー幸子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
(1)すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語でコミュニケーションを図る。			
(2)英語のコミュニケーションが 4 技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3)コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
英語によるコミュニケーション能力を育成するため、文法の正確な理解と語彙知識の定着を基礎として 4 技能（聞く・話す・読む・書く）をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第 1 回：Lesson 1 Warm up Listening、Tips Material One			
第 2 回：Lesson 1 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 3 回：Lesson 2 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 4 回：Lesson 2 Warm up Listening、Tips Material One			
第 5 回：Lesson 3 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 6 回：Lesson 3 Warm up Listening、Tips Material One			
第 7 回：Lesson 4 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 8 回：Lesson 4 Warm up Listening、Tips Material One			
第 9 回：Lesson 5 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 10 回：Lesson 5 Warm up Listening、Tips Material One			
第 11 回：Lesson 6 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 12 回：Lesson 6 Warm up Listening、Tips Material One			
第 13 回：Lesson 7 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第 14 回：Lesson 7 Warm up Listening、Tips Material One			
第 15 回：Review			
定期試験			
テキスト English Sound Box			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価			
学期末試験、プレゼンテーション、小テスト、意欲・学習状況等で評価する。			

授業科目名： 英語表現Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡本裕子、メイヨー幸子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
授業の到達目標及びテーマ			
(1)すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語でコミュニケーションを図る。			
(2)英語のコミュニケーションが4技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3)コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
英語によるコミュニケーション能力を育成するため、文法の正確な理解と語彙知識の定着を基礎として4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第1回：Lesson 8 Warm up Listening、Tips Material One			
第2回：Lesson 8 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第3回：Lesson 9 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第4回：Lesson 9 Warm up Listening、Tips Material One			
第5回：Lesson 10 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第6回：Lesson 10 Warm up Listening、Tips Material One			
第7回：Lesson 11 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第8回：Lesson 11 Warm up Listening、Tips Material One			
第9回：Lesson 12 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第10回：Lesson 12 Warm up Listening、Tips Material One			
第11回：Lesson 13 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第12回：Lesson 13 Warm up Listening、Tips Material One			
第13回：Lesson 14 Material Two、Challenge Project、Vocabulary Quiz			
第14回：Lesson 14 Warm up Listening、Tips Material One			
第15回：Review			
定期試験			
テキスト English Sound Box			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価			
学期末試験、プレゼンテーション、小テスト、意欲・学習状況等で評価する。			

授業科目名： 英語表現Ⅴ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： クリストファー・メイヨー
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語でのコミュニケーションを図る。			
(2) 英語のコミュニケーションが4技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3) コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
コミュニケーション能力を育成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の4技能をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義の目的と概要）			
第2回：現代日本におけるレンタルサービスの世界 (1) 内容理解			
第3回：現代日本におけるレンタルサービスの世界 (2) プレゼンテーション			
第4回：コーヒーの効用 (1) 内容理解			
第5回：コーヒーの効用 (2) プレゼンテーション			
第6回：中国の英語標識に見られる誤訳 (1) 内容理解			
第7回：中国の英語標識に見られる誤訳 (2) プレゼンテーション			
第8回：幸せな人は長生き？ (1) 内容理解			
第9回：幸せな人は長生き？ (2) プレゼンテーション			
第10回：寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル (1) 内容理解			
第11回：寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル (2) プレゼンテーション			
第12回：記憶を呼び覚ます音楽の力 (1) 内容理解			
第13回：記憶を呼び覚ます音楽の力 (2) プレゼンテーション			
第14回：総復習			
第15回：期末プレゼンテーションの質疑応答			
定期試験			
テキスト CBS News Break 4			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価			
レスポンスペーパー：20%、英語多読の感想文：20%、学期末プレゼンテーション：60%			

授業科目名： 英語表現Ⅵ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： クリストファー・メイヨー
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) すでに身につけた英語力を駆使して、アクティブ・ラーニングを通して、積極的に英語でのコミュニケーションを図る。			
(2) 英語のコミュニケーションが4技能（聞く・話す・読む・書く）で取れるようになる。			
(3) コミュニケーションに必要な文法力と適切な語彙力を身につける。			
授業の概要			
コミュニケーション能力を育成するため、「聞く・話す・読む・書く」という英語の 4 技能をバランス良く身に付け、習熟度別に編成された少人数のクラスにおいて、大学生に求められる実践的英語力を向上させる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義の目的と概要）			
第2回：仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者 (1) 内容理解			
第3回：仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者 (2) プレゼンテーション			
第4回：洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染 (1) 内容理解			
第5回：洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染 (2) プレゼンテーション			
第6回：世界に広がる人生を変える片付けの極意 (1) 内容理解			
第7回：世界に広がる人生を変える片付けの極意 (2) プレゼンテーション			
第8回：高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ (1) 内容理解			
第9回：高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ (2) プレゼンテーション			
第10回：思いがけない再開にみるクリスマスの本当の意味 (1) 内容理解			
第11回：思いがけない再開にみるクリスマスの本当の意味 (2) プレゼンテーション			
第12回：人口減の日本を支援する人型ロボットの開発 (1) 内容理解			
第13回：人口減の日本を支援する人型ロボットの開発 (2) プレゼンテーション			
第14回：総復習			
第15回：期末プレゼンテーションの質疑応答			
定期試験			
テキスト CBS News Break 4			
参考書・参考資料等 随時紹介する			
学生に対する評価			
レスポンスペーパー：20%、英語多読の感想文：20%、学期末プレゼンテーション：60%			

授業科目名： 情報処理Ⅰ（基礎）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 張 磊、桐村 喬 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ コンピュータを用いた情報処理をおこなう上で必要となる基礎知識および操作技能のうち、Windows入門から、情報モラル、メールの送受信、ワープロソフトによる文書作成までの内容を学ぶことを目的とする。本授業の到達目標は1）パソコンの基本操作ができる(Windowsの操作)、2）情報モラルを身に付け、資料の正しい引用の方法や著作権等について自分で説明できる、3）パソコンを使う上でのリテラシーを身につける(専門用語の理解と基礎知識の習得)、4）電子メールの仕組みを理解し、メールのやり取りだけでなく環境設定を含むメール管理ができる、5）ワープロソフトによる文章作成ができる(MOSを基準に)			
授業の概要 演習形式の授業でユニット毎に課題を提出してもらい、教育支援システムを使って、評価・コメントをフィードバックする。			
授業計画 第1回：大学の諸教育支援システムを説明する・デスクトップ画面のカスタマイズを説明する 第2回：「ハードウェア」と「ソフトウェア」等専門用語、基本操作 第3回：・キーボードのすべてのキーの解説・プリントスクリーンキーの使い方・フリーズへの対応 第4回：「ソフトを起動し、作業を行い、中間結果を保存し、作業を再開する」というパソコン活用 第5回：ファイルシステムの解説・エクスプローラの利用・複数ファイルの選択 第6回：メールシステムの仕組み 第7回：Google Driveの使い方を説明する 第8回：情報モラルについて説明する 第9回：・正しい引用の方法・ネット上のコンテンツの知的財産権（著作権等） 第10回：Wordの基礎篇・Wordの起動終了、画面説明、文字編集、保存、再読込みの説明等。 第11回：デザイン篇（1）各種表示モード・頁設定、文字書式設定・ヘッダとフッタ設定・文字列編集 第12回：デザイン篇（2）箇条書き・段落番号・インデントマーカーの使用・行間距離の調整等 第13回：・表の計算機能・グラフ作成と編集・図形描画・ハイパーリンク 第14回：Word のテクニック篇・文章の校正・オートコレクト・テンプレートとウィザード・文書のセキュリティ 第15回：・レポート作成指導・レポート提出 定期試験			
テキスト 「大学生のための情報リテラシー」,張磊・桐村喬 共著,共立出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 ①出席状況と授業に臨む態度(25%) ②小テスト(25%) ③レポート(50%)			

授業科目名： 情報処理Ⅱ（応用）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 張 磊、桐村 喬
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
表計算ソフトの説明、プレゼンテーションソフトによる発表用スライド作成、インターネットを用いた情報検索・情報交換・情報発信の方法について学ぶことを目的とする。本授業の到達目標は1) 表計算ソフトExcelをマスターする(MOSを基準に)2) プレゼンテーションソフトによるイラスト作成ができる(MOSを基準に)3) インターネットを使って情報収集・加工・整理・保存することができる。			
授業の概要			
演習形式の授業でユニット毎に課題を提出してもらい、教育支援システムを使って、評価・コメントをフィードバックする。			
授業計画			
第1回：確認テストを行う			
第2回：Excelの基礎篇・画面説明・基本操作			
第3回：Excelの編集篇・セルの編集・列と行の編集・Ctrl-1メニューの詳説			
第4回：Excelの関数篇・数式の入力と編集・関数の使用・相対と絶対参照			
第5回：Excelのグラフ篇・グラフの作成・ワークシートの印刷			
第6回：Excelのデータ・分析篇・リストの作成・リストの各種操作・入力規則の設定・ワークシートの分析			
第7回：Excel復習・練習ファイルの各シートの完成を確認する			
第8回：PowerPoint基本篇・画面説明・スライドの作成方法・スライドの編集			
第9回：PowerPoint実行篇・スライドの実行・画面切替効果・アニメ設定・ナレーション挿入・プレゼンリハーサル			
第10回：PowerPoint総合演習			
第11回：インターネットブラウザと検索テクニック・キーワード検索・文献の検索方法			
第12回：インターネット上のデータの利用方法（1）・統計データの利用・オープンデータの利用			
第13回：インターネット上のデータの利用方法（2）・クリエイティブコモンズライセンス・ウィキメディアコモンズの活用・青空文庫、最終課題レポートの説明			
第14回：・総合復習①・期末課題作成指導			
第15回：・総合復習②・期末課題の提出			
定期試験			
テキスト 「大学生のための情報リテラシー」,張磊・桐村喬 共著,共立出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 ①出席状況と授業に臨む態度(25%) ②小テスト(25%) ③レポート(50%)			

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野々垣 明子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教育、学習など教育学の諸概念を身に付け、家庭、学校、社会における教育のあり方を理解することにより、人間における教育や学びの本質をとらえることができる。教育の理念、歴史、思想に関わる基礎的な知識を身に付け、教育の必要性、学校教育の役割を歴史的、思想的に理解する。今日における教育課題について、歴史的背景を踏まえて理解する。			
授業の概要			
人間にとっての教育の必要性、教育の目的、学校教育の目的と役割、今日における教育課題について、主に歴史的、思想的観点から講義をする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：教育とは何か			
第3回：学ぶとは何か			
第4回：発達と教育の理論			
第5回：子どもの教育を支える環境としくみ—家庭・園・学校・地域			
第6回：子ども観の変遷と子育ての歴史			
第7回：西洋における学校と教育の歴史			
第8回：日本における学校と教育の歴史			
第9回：公教育の思想			
第10回：近代公教育制度の成立と展開			
第11回：子どもの発見			
第12回：教育方法の思想			
第13回：カリキュラムの思想			
第14回：グローバル化社会における教育課題			
第15回：生涯学習の歴史と思想・今日における課題			
テキスト 島田和幸・高宮正貴編著『よくわかる教職エクササイズ①教育原理』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			
学期末レポート（70％）、授業における課題への取り組み（30％）			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野々垣 明子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
教職の社会的意義、役割、職務内容、研修、求められる資質能力などの基礎的な知識の習得を促す。教職という仕事に対する正確な理解を深め、教職に就く意欲を高め、進路選択に関わる情報をもとに自らの適性を熟考し判断することができる。			
授業の概要			
現代社会の課題、社会における公教育の目的を踏まえ、教職の意義や職務内容、今日の教員に求められる資質能力、研修の意義、服務上の義務、チーム学校への対応等について、解説する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学校教育の目的と教職の意義			
第3回：教職観の変遷と教員の役割			
第4回：教員の職務内容（1）学習指導・遊びの指導			
第5回：教員の職務内容（2）生徒指導・生活の指導			
第6回：教員の職務内容（3）学級経営			
第7回：教員の職務内容（4）学校運営・校務分掌			
第8回：現代の教師に求められる資質能力			
第9回：教員の力量形成のための研修の意義と制度			
第10回：教員としての心構えと服務上・身分上の義務			
第11回：教員の服務上・身分上の義務と身分保障			
第12回：今日の学校の課題と組織的対応の必要性			
第13回：チーム学校への対応			
第14回：教職にむけての学び（1）教育実習の意義			
第15回：教職にむけての学び（2）教職への進路選択			
定期試験			
テキスト			
佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			
受講態度、筆記試験およびレポート課題から総合的に判断する。筆記試験では基礎的な知識を問う。レポート課題は今日の教育課題を的確に把握し、自らの教育観を論理的に述べられているかを問う。			

授業科目名： 教育の社会と制度	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市田 敏之
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 現代公教育制度の原理や構造について、社会的・制度的・経営的視点から基礎的知識を身に付けるとともに、内在する課題を理解する。			
授業の概要 近年の教育改革動向を念頭に置きつつ、公教育の概念とその制度的原理、教育行政の概念、教育行政組織の構造と機能等について、主に制度的側面から解説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：教育の法制度 第3回：学校教育の制度 第4回：学校経営の基本と学校評価システム 第5回：学級経営の仕組みと効果的方法 第6回：教師の力量形成のための制度 第7回：学校と家庭、地域の連携・協働 第8回：学校安全の制度(1) 学校保健安全法の概要 第9回：学校安全の制度(2) 学校安全に関する取り組み 第10回：教育と社会階層 第11回：社会化装置としての学校と逸脱 第12回：就学前の教育・保育に対する社会的要請と制度 第13回：特別支援教育の制度 第14回：教育政策と教育行政制度-新自由主義的教育制度の動向- 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房、平成28年。			
参考書・参考資料等 古賀一博編著『教育行財政・学校経営』協同出版、平成26年。			
学生に対する評価 授業に対する受講態度および試験から総合的に判断する。試験は基礎的な知識を問う問題と実践的・発展的思考を問う問題から構成される。			

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 賢二
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達、不適応行動及び学習過程についての基礎的な知識を身につける。			
授業の概要 発達、学習、動機づけ、記憶、パーソナリティ、教育評価などの理論を学習し、その理論が教育現場ではどのように用いられているのか解説する。また学級経営や不適応行動の子どもとの関わりについて解説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：発達（1） 発達段階と発達課題 第3回：発達（2） 乳幼児期 第4回：発達（3） 児童期，青年期 第5回：学習の理論 第6回：記憶 第7回：動機づけ 第8回：自己とパーソナリティ 第9回：人間関係と社会性 第10回：学級集団（1）教師のリーダーシップ 第11回：学級集団（2）仲間関係 第12回：学校不適応（1）不登校（不登園） 第13回：学校不適応（2）いじめ 第14回：発達障害 第15回：教育評価 定期試験			
テキスト 黒田祐二編著『（改訂版）実践につながる教育心理学』北樹出版、令和3年。			
参考書・参考資料等 中澤潤編著『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房、平成20年。			
学生に対する評価 授業に対する受講態度及び試験から総合的に判断する。試験は基礎的な知識を問う問題と実践的思考を問う問題から構成される。			

授業科目名： 特別支援教育の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大杉 成喜
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
特別支援教育・インクルーシブ教育等の基礎となる理論・方法、現状と課題等を学び、特別支援教育に関する基礎的な知識・理解をもとに、特別な教育的ニーズのある子どもの支援を行う態度を身につける。			
授業の概要			
幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教諭および保育士等を目指す学生に対して、特別支援教育・インクルーシブ教育・通常学級に在籍する特別な教育ニーズのある子ども等の教育の基礎となる知識・理解を深めるとともに、特別支援教育の視点を生かして教育に取り組む基礎的な方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：国際障害観の変遷と障害者の権利条約、インクルーシブ教育			
第3回：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律と学校教育、基礎的環境整備と合理的配慮			
第4回：特別支援教育の歴史・様々な特別な教育ニーズのある子ども			
第5回：幼・小・中・高等学校における特別支援教育、個別的教育支援計画と個別の指導計画、校内体制と特別支援教育コーディネーター			
第6回：特別支援学級における教育			
第7回：特別支援学校における教育（視覚・聴覚・知的障害、肢体不自由、病弱等の障害の重い子ども）			
第8回：発達障害とは、通常の学級に在籍する特別な教育ニーズのある子ども			
第9回：自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害のある子どもの理解と基本的対応			
第10回：ADHDのある子どもの理解と基本的対応			
第11回：LDのある子どもの理解と基本的対応			
第12回：発達障害児への基本的対応、通級指導教室と在籍学級の連携			
第13回：授業のユニバーサルデザイン化			
第14回：様々な特別な教育ニーズのある子どもへの切れ目のない支援・三重県パーソナルファイル			
第15回：まとめ・三重県教委「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の特別支援教育分野			
テキスト			
幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（文部科学省Web版 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm を利用。）			
参考書・参考資料等			
特別支援児の心理学[新版]：理解と支援, 梅谷忠勇・堅田明義・生川善雄編著, 北大路書房, 2015			
学生に対する評価			
毎回の授業終了後のショートレポート、中間レポート、期末試験によって総合的に評価します。			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 兼一
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。 ）		
授業の到達目標及びテーマ 現代の教育課程の編成原理や構造について、教育政策・法令的側面および学校経営・学級経営の視点から基礎的知識を身につける。実際の運用において内在する諸課題について理解を深める。			
授業の概要 教育課程は学校における教育活動の全体的計画である。その教育課程を編成し、教育実践を行うのは教師自身である。そのため、教師にはカリキュラム・マネジメント能力を有することが求められる。本科目では、近年の教育課程改革の動向をふまえ、教育課程の意義や機能、編成の理論と方法さらに評価の手法について解説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、教育課程の概念 第2回：教育課程の編成原理および構造　－領域論－ 第3回：近代日本の教育課程　－明治期の特色－ 第4回：近代日本の教育課程　－大正から昭和戦前期の特色－ 第5回：昭和20年代における教育課程改革　－学習指導要領の登場・社会科を中心として－ 第6回：昭和30年代における教育課程改革　－問題解決学習から系統学習へ－ 第7回：欧米における教育理論の系譜　－進歩主義と本質主義－ 第8回：昭和40年代における教育課程改革　－教育内容の現代化－ 第9回：平成から現代の教育課程改革　－学習指導要領の特色・機能－ 第10回：学習指導要領の改訂と学力問題 第11回：指導計画と教育実践 第12回：授業づくりにおけるPDCAサイクル 第13回：教育課程編成・実施上の配慮事項、学習指導と生徒指導 第14回：カリキュラム評価とその手続き 第15回：教育課程の現代的諸問題			
テキスト 田中耕治編『よくわかる教育課程（第2版）』ミネルヴァ書房、平成30年			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』（最新版） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　総則編』（最新版）			
学生に対する評価 期末試験で評価する。試験は基礎的知識および実践的思考を問う問題から構成される。			

授業科目名： 道徳の理論及び指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 毅
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 道徳教育の基本的な知識と理論について理解する。 2. 道徳授業の実践例を、模擬授業の参考にする。 3. 模擬授業を行い、実践的な指導法について学ぶ。			
授業の概要			
道徳教育の理論及び指導法に関する基礎知識を伝え、それを活用して実際に模擬授業という形で実践的に学ぶという講義と演習を交えた授業である。			
授業計画			
第1回：道徳とは何か			
第2回：なぜ道徳教育は必要か			
第3回：現代日本における道徳的課題			
第4回：心と体に適った道徳的な生き方			
第5回：これからの道徳教育			
第6回：評価について			
第7回：アメリカの道徳教育			
第8回：全体計画と年間指導計画の作成について			
第9回：道徳の授業をつくる			
第10回：授業実践例とアプローチの仕方について			
第11回：授業理論と実践例（1） 指導案の作成の仕方と指導過程の基本			
第12回：授業理論と実践例（2） 自我関与的な授業展開を中心に			
第13回：授業理論と実践例（3） 問題解決的・体験的授業展開を中心に			
第14回：教材研究と指導案作成			
第15回：模擬授業と評価			
テキスト			
授業時配布するプリントを使用する。			
参考書・参考資料等			
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）			
学生に対する評価			
授業に対する受講態度と小テスト及び課題(年間指導計画表や学習指導案の作成等)から総合的に評価する。小テストは、講義形式の授業後に選択肢問題により基礎的な知識・理解について解答することになっている。			

授業科目名： 総合的な学習の 時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 駒田 聡子
		担当形態：単独	
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
探求的な見方・考え方を働かせ、教科横断的かつ総合的な学習を通してよりよく生きようとする課題解決能力育成を目指すために、実社会・実生活の課題に気づき、課題解決のためのアプローチの方法を考え、課題探究する学びを実現するための指導計画の作成、指導の仕方、学習活動の評価に関する、知識・技能を身に付ける。			
授業の概要			
各教科で学んだ見方・考え方を生かし、教科横断的・総合的な学習や探求的な学習を実践するという総合学習特有の学習の在り方を理解する。また実社会や実生活から自らの課題を見出し、それを探求し解決するプロセスを通じ、自己の生き方を考えることができるようにする指導方法、指導計画、評価方法を身に付ける。また、協同的学び、模擬授業を通し授業展開の実際ができるようになる。			
授業計画			
第 1 回：総合的な学習の時間の目標と、教科の特徴を知る			
第 2 回：実社会・実生活上の課題を探求するための多角的視点を知る			
第 3 回：実社会・実生活上の課題を考え、解決するアプローチ方法を学ぶ			
第 4 回：課題解決方法について、自ら見出した課題に従い授業展開するための指導計画を立てる			
第 5 回：総合的な学習の評価の考え方と実践上の留意点を知る			
第 6 回：課題解決方法について協同的に考え、さらにその評価方法について考察する			
第 7 回：グループ学習の発表（模擬授業）を行い、相互評価をする			
第 8 回：授業のまとめ、自らの学びの成長について振り返る			
定期試験			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（最新版 文部科学省）			
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（最新版 文部科学省）			
参考書・参考資料等 随時紹介			
学生に対する評価			
授業に対する受講態度および課題レポート、試験結果から総合的に判断する。			
課題レポートは指導計画、授業評価の方法、試験は総合的な学習の学びに関する基礎的内容および発展的内容			

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 勢力 稔
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 特別活動の指導の在り方を理解し実践力を培う。 1) 教育課程全体で取り組む指導の在り方について。 2) 評価・改善活動の重点を把握する。 3) 合意形成、意思決定を育む指導の在り方について。 4) 家庭、地域社会と連携した取組の在り方について			
授業の概要 中学校及び高等学校の特別活動の学習指導要領を踏まえ、「学級活動・ホームルーム活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の目標や内容、特質、指導案の作成の仕方と実際の指導方法や評価方法について具体的・実践的に探究する。			
授業計画 第1回：授業の進め方：課題への対応、評価基準等の説明。特別活動の特質と教育的意義について。 第2回：特別活動の経験と学び：特別活動における「見方・考え方」「資質・三つの柱」について。 第3回：特別活動の目標と内容：特別活動の目標と内容、育成を目指す資質・能力について 第4回：特別活動における人間関係形成：特別活動の特質と人間関係形成の視点について。 第5回：特別活動における評価：特別活動の評価の意義と機能について。 第6回：学級活動・ホームルーム活動の指導計画：指導計画の作成と発表及び指導方法について。 第7回：学校行事及び生徒会活動の指導計画：指導計画と指導上の留意点について 第8回：特別活動のまとめ：「生徒会活動、学級活動・ホームルーム活動、学校行事」と家庭・地域住民や関係機関との連携を目指した実践について。			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 特別活動編」東京書籍			
参考書・参考資料等 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター「学級・文化を創る特別活動【中学校編】」、東京書籍、2019年、			
学生に対する評価 1) 期末レポート(①特別活動の意義等の理解、学級・HRと日常的指導の関連、②特別活動に関する指導計画)60％ 2) 受講態度、毎回のワークシート（①毎回の課題への回答内容、②授業での発表等）40％			

授業科目名：教育方法論 (ICTの活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：勢力 稔 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める	教育の方法及び技術		
科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
1) 子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。			
2) 学習指導案の基本的な要素と作成の流れを理解し、実際に設計できる。			
3) ICTを活用した教育の理論と方法を理解し、授業設計の際に適切に位置付けることができる			
4) ICT機器・機材の活用の指導と共に、情報セキュリティの基礎、情報モラルを指導できる。			
授業の概要 本授業は、学校で行われるさまざまな教育とその背後にある法的根拠、指導する教員の資質向上の在り方を学び、実践的指導力の基礎を培う。具体的には、授業設計に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術、評価方法、ICT(情報通信技術)の効果的な活用や情報化社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回 授業づくりの基礎理論：教師に求められる資質・能力について。			
第2回 深い学びとは：「対話的」で「主体的」な学びを具現化する探求型の学習方法について。			
第3回 授業設計1：「主体的・対話的で深い学び」の考え方について。			
第4回 授業設計2：学習成果を測定するルーブリックを用いた評価方法について。			
第5回 授業を支える指導技術1：発問・指示・説明、板書計画、資料提示について。			
第6回 授業を支える指導技術2：学級経営、机間指導、ノート指導について。			
第7回 ICT活用：現代社会におけるICTの役割と導入			
第8回 ICT活用：対話的な学び・深い学びの観点におけるICTの活用について。			
第9回 ICT活用：対話で深い学びを創り出すオンライン授業について			
第10回 ICT活用：タブレット端末を活用した各教科の実践について			
第11回 ICT活用(教材設計1)：デジタル教材の作成と利用について。			
第12回 ICT活用(教材設計2)：プログラミングを活用した教育実践につて			
第13回 ICT活用：情報通信技術を活用した学習評価と教育情報セキュリティの重要性について			
第14回 ICT活用：高度情報通信社会における情報モラルの指導法について			
第15回 授業の改善：これまでの授業づくり(ICTの活用含む)の学びから、より良い授業への改善について			
テキスト 稲垣忠／佐藤和紀「ICT活用の理論と実践」北大路書房			
参考書・参考資料等 「タブレット端末を授業に生かすNHK for School」NHK出版			
「小学校学習指導要領(平成29年度告示)」解説総則編「中学校学習指導要領(平成29年度告示)」解説総則編、			
学生に対する評価 成績評価は、次の4つの方法を組み合わせて実施する。			
① 授業パッケージ報告書(期末課題として提出)、②発表会 (ICTを活用した授業企画書の発表と相互評価) ③個人レポート、④ICTを活用した模擬授業			

授業科目名： 生徒・進路指導の理論 及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 賢二
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
・生徒指導の意義・目的・方法について理解し説明できる。 ・児童生徒理解について、その内容と方法を例示し説明できる。 ・生徒指導上の問題行動とその対応について、具体的な指導事例を構想できる。 ・進路指導を包含するキャリア教育の意義と課題を説明できる。 ・生徒指導・キャリア教育における関連重要語句について具体的に解説できる。			
授業の概要			
・講義形式。学習内容の理解度を深めるため、毎時の授業振り返りシートまたはミニレポートを課す。 ・学校現場における具体的事例を提示し、児童生徒や保護者とどのように向き合うかをテーマにした双方向型の時間を採り入れる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション～生徒指導及び進路指導の概要を確認し、15講義の見通しを知る			
第2回：生徒指導の意義と原理および教育課程における生徒指導			
第3回：児童生徒の心理と児童生徒理解～その意義と重要性			
第4回：学校における生徒指導体制～その基本的な考え方			
第5回：教育相談～生徒指導における教育相談の重要性と基本的な方法			
第6回：生徒指導の進め方Ⅰ～すべての児童生徒を対象とする生徒指導			
第7回：生徒指導の進め方Ⅱ～個別の課題を抱える児童生徒への生徒指導			
第8回：いじめ防止対策推進法～その役割と対応の視点			
第9回：生徒指導に関する法制度～主な法令等とその内容			
第10回：学校と家庭・地域・関係機関等との連携～その在り方			
第11回：キャリア教育と進路指導Ⅰ～自分に気付き、未来を築くキャリア教育			
第12回：キャリア教育と進路指導Ⅱ～キャリア教育の意義および理論			
第13回：キャリア教育と進路指導Ⅲ～キャリア教育の基本的な方向と推進方策			
第14回：キャリア教育と進路指導Ⅳ～各学校種の教育課程との関わりにおける実践			
第15回：生徒指導論と進路指導論の総括～15講義を通して考えたこと			
テキスト			
・「生徒指導提要」（最新版 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
・授業において適宜資料として配布または紹介する			
学生に対する評価			
・毎時の振り返り40%、ミニレポート30%、レポート30%			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 直樹
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童、生徒の発達の状況を理解し、個々の心理特質や教育的課題を適切に捉え、支援するための基礎的な知識を身につける。カウンセリングの意義、理論や技法に関する知識を理解する。			
授業の概要 不登校（不登園）やいじめなどの不適応行動、特別支援についての理解や関わり、また心理的なアセスメントの方法、カウンセリングの理論と基本的技法について解説する。また学校内外や他職種との連携について解説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：学校における教育相談の目的と活動内容 第3回：教育相談の校内体制 第4回：不適応行動の子どもの理解と関わり 第5回：こころの不健康 第6回：発達障がい 第7回：不登校（不登園） 第8回：いじめ 第9回：虐待 第10回：心理教育的アセスメント 第11回：カウンセリング（1）基本的な理論と方法 第12回：カウンセリング（2）学校での実践 第13回：カウンセリング（3）多様な技法 第14回：予防的・開発的な援助 第15回：学校内外の連携			
定期試験			
テキスト 黒田祐二著書『実践につながる教育相談』北樹出版、平成26年。			
参考書・参考資料等 春日井敏之・伊藤美奈子編著『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、平成25年。			
学生に対する評価 授業に対する受講態度及び試験から総合的に判断する。試験は基礎的な知識を問う問題と実践的思考を問う問題から構成される。			

シラバス：教職実践演習

シラバス:教職実践演習(中等)		単位数:2単位		担当教員名: 教科担当:加藤純一、上野祐一 教職担当:野々垣明子	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 1クラス20名以内を原則とし、演習形式で実施する。					
教員の連携・協力体制					
本講義の主たる進行は加藤が行う。「使命感や責任感、教育的愛情に関する事項」は野々垣が担当する。「社会性や対人関係能力に関する事項」はゲストスピーカーを招聘する。「生徒理解や学級経営等に関する事項」はゲストスピーカーを招聘する。「教科内容等の指導力に関する事項」の保健体育は加藤が、数学は上野が担当する。					
授業のテーマ及び到達目標					
本講義を構成する4つの事項(「使命感や責任感、教育的愛情に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営等に関する事項」「教科内容等の指導力に関する事項」)を通して、教員としての資質及び能力を高めることを目標とする。具体的には次の通りである。					
「使命感や責任感、教育的愛情に関する事項」:教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的、積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持とうとしている。また、自己の課題を認識し、その解決に向けて自己研鑽に励み、常に学び続けようとする姿勢を持とうとしている。					
「社会性や対人関係能力に関する事項」:挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本を身に付けようとしている。また、学校組織の一員として協調性や柔軟性を大事にしながら校務の運営に当たる態度を養おうとしている。					
「生徒理解や学級経営等に関する事項」:子どもの声を真摯に受け止め、子どもの健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接する態度を養おうとしている。また、生徒の特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持とうとしている。					
「教科内容等の指導力に関する事項」:ICTの活用を踏まえた上で自ら主体的に教材研究を行うとともに、それらを活かした学習指導案を作成する力を持つ。また、ICT活用指導力の向上に努め、教材研究を十分に行い、教材を介して分かりやすい学習を組み立てられるとともに、子どもからの質問に的確に応える力量を備えようとしている。					
授業の概要					
本講義を構成する4つの事項を通して、将来の教員としての自己の成長した姿をイメージさせ、そのイメージの実現のために今、何をすべきかを考えさせる。ゲストスピーカーの招聘では現場の今の姿を語っていただき、教育現場の最新の情報が入手できるような人選を行う。教員としての資質及び能力を高めるために、教育実習の振り返りと模擬授業に重きを置く。					

授業計画

第1回：オリエンテーション（加藤・野々垣・上野）及び教職履修カルテによる振り返り

第2回：教員としての資質とは（ゲストスピーカーによる講演；レポート提出）

第3回：教員に求められる資質について（野々垣：討論）

第4回：教員に求められる使命感について（野々垣：討論；レポート提出）

第5回：生徒理解について（ゲストスピーカーによる講演〈学内講師〉；レポート提出）

第6回：学級経営のノウハウ（ゲストスピーカーによる講演；レポート提出）

第7回：学級経営に求められること（上野：討論；レポート提出）

第8回：生徒指導の実際（ゲストスピーカーによる講演；レポート提出）

第9回：課外活動について（加藤：討論；レポート提出）

第10回：教材研究1〔教材の選定と教材分析〕（加藤・上野：討論）

第11回：教材研究2〔学習指導案の書き方・読み方〕（加藤・上野：討論）

第12回：教材研究3〔ICTを活用した授業を実践するために〕（加藤・上野：討論）

第13回：教材研究4〔ICTを用いた模擬授業の実践とその振り返り〕（加藤・上野：討論；レポート提出）

第14回：教育実習の振り返り（加藤・上野：討論；レポート提出）

第15回：まとめ（加藤・野々垣・上野）

テキスト

各教科の「中学校学習指導要領解説」「高等学校学習指導要領解説」（文部科学省）

参考書・参考資料等

講義中に指示する。あわせて、講義中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

ゲストスピーカーの講演の用紙をまとめたレポート（3つ）、討論の内容をまとめたレポート（6つ）を基に、教員としての最小限必要とされる資質・能力が身に付いているかを確認し、評価をする。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。